



H.248 設定可能な T-Max

今回のリリースでは、T-Max 値を変更するコンフィギュレーション コマンドが追加されました。T-Max は、信頼できないトランスポート メディア（UDP など）を介してメディア ゲートウェイ コントローラ（MGC）にメッセージを送信するときに、DBE 上の H.248 スタックが使用するタイマーです。T-Max インターバルの間に、MGC が同じトランザクションを再び DBE に送信した場合、DBE では重複した要求と見なします。

H.248 設定可能 T-Max の機能履歴

リリース	変更内容
リリース 3.5.1	このコマンドは Cisco CRS-1 に初めて追加されました。

内容

このモジュールの構成は次のとおりです。

- [「H.248 設定可能 T-Max に関する情報」 \(P.411\)](#)
- [「H.248 設定可能 T-Max の設定方法」 \(P.412\)](#)
- [「その他の関連資料」 \(P.413\)](#)
- [「その他の関連資料」 \(P.413\)](#)

H.248 設定可能 T-Max に関する情報

今回のリリースでは、T-Max 値を変更するコンフィギュレーション コマンドが追加されました。T-Max は、信頼できないトランスポート メディア（UDP など）を介してメディア ゲートウェイ コントローラ（MGC）にメッセージを送信するときに、DBE 上の H.248 スタックが使用するタイマーです。信頼性に欠けるトランスポートの性格上、DBE は MGC から応答を受け取るまで、メッセージ送信を繰り返します。ただし、再送信の前に、DBE は最初のデータグラムを送信してからの経過時間が T-Max 値を超えていないかどうかを確認します。経過時間が T-Max 値を超えていた場合、DBE は MGC に障害が発生したと判断し、リカバリ プロセスを開始します。

新しい機能を使用すると、DBE 上の H.248 スタックの動作を（ネットワークの状況やカスタマーの意向に応じて）変更するために、T-Max 値を変更したうえで、信頼できないトランスポート メディアを介して MGC にメッセージを送信できます。DBE の動作状況は次の 2 通りです。

- DBE が T-Max インターバルの間に同じトランザクション要求を再び受信します。MGC から ADD 要求をもう一度受信するなどです。この場合、DBE はリソースの追加割り当てを行わず、要求が重複していると見なします。
- DBE が MGC から確認応答を受信せず、T-Max がタイムアウトするまで、同じメッセージの再送信を繰り返します。再送信試行は、平均 4 秒間隔で行われます。

H.248 設定可能な T-Max の設定方法

ここでは、H.248 T-Max の設定手順を示します。

H.248 設定可能な T-Max の設定

手順の概要

1. `configure`
2. `sbc service-name`
3. `dbe`
4. `vdbe [global]`
5. `h248-tmax timer-value`
6. `commit`
7. `exit`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>configure</code> 例： RP/0/0/CPU0:router# <code>configure</code>	グローバル コンフィギュレーション モードをイネーブルにします。
ステップ2	<code>sbc service-name</code> 例： RP/0/0/CPU0:router(config)# <code>sbc mysbc</code>	SBC サービスのモードを開始します。 <code>service-name</code> 引数を使用して、SBC の名前を定義します。
ステップ3	<code>dbe</code> 例： RP/0/0/CPU0:router(config-sbc)# <code>dbe</code>	SBC の Data Border Element (DBE) 機能のモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ4	<code>vdbe [global]</code> 例： RP/0/0/CPU0:router(config-sbc-dbe)# <code>vdbe</code>	仮想 DBE (vDBE) パラメータを設定するモードを開始します。
ステップ5	<code>h248-tmax timer-value</code> 例： RP/0/0/CPU0:router(config-sbc-dbe-vdbe)# <code>h248-tmax 20000</code>	H.248 コントローラとのアソシエーション形成後に、DBE に使用させる T-Max タイマー値を定義します。 設定オプションを取り消すには、このコマンドの no 形式を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> timer-value : タイマーの長さをミリ秒単位で定義します。範囲は 5000 ~ 50000 です。デフォルト値は 10000 です。
ステップ6	<code>commit</code> 例： RP/0/0/CPU0:router(config-sbc-dbe-vdbe)# <code>commit</code>	設定変更を保存します。実行コンフィギュレーション ファイルに変更を保存し、コンフィギュレーション セッションを継続するには、 commit コマンドを使用します。
ステップ7	<code>exit</code> 例： RP/0/0/CPU0:router(config-sbc-dbe-vdbe)# <code>exit</code>	現在のコンフィギュレーション モードを終了します。

その他の関連資料

ここでは、H.248 設定可能 T-Max の設定に関する関連資料について説明します。

関連資料

関連項目	マニュアル タイトル
Cisco IOS XR マスター コマンド リファレンス	『Cisco IOS XR Master Commands List』
Cisco IOS XR SBC インターフェイス コンフィギュレーション コマンド	『Cisco IOS XR Session Border Controller Command Reference』
Cisco IOS XR ソフトウェアを使用するルータを初回に起動し設定するための情報	『Cisco IOS XR Getting Started Guide』
Cisco IOS XR コマンド モード	『Cisco IOS XR Command Mode Reference』

標準

標準	タイトル
この機能でサポートされる新規の標準または変更された標準はありません。また、既存の標準のサポートは変更されていません。	—

MIB

MIB	MIB のリンク
—	<p>Cisco IOS XR ソフトウェアを使用して MIB の場所を特定してダウンロードするには、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用して、[Cisco Access Products] メニューからプラットフォームを選択します。</p> <p>http://cisco.com/public/sw-center/netmgmt/cmtk/mibs.shtml</p>

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
シスコのテクニカル サポート Web サイトでは、製品、テクノロジー、ソリューション、技術的なヒント、およびツールへのリンクなどの、数千ページに及ぶ技術情報が検索可能です。Cisco.com に登録済みのユーザは、このページから詳細情報にアクセスできます。	http://www.cisco.com/en/US/support/index.html